

JAPAN OPEN DOGDANCE COMPETITION

日本オーブンドッグダンス競技会

規程



このドッグダンス競技会規程は、2020 年 12 月 30 日に決定されました

- (1) 2021 年 1 月 7 日一部追記と修正
- (2) 2021 年 3 月 4 日一部追記と修正
- (3) 2023 年 12 月 12 日- 追記と修正
- (4) 2025 年 10 月 22 日-6.6※削除

----- 無断転載・無断転用を禁止いたします -----

目次

序章	3
1. Japan Open Dogdance Competition の開催と参加規則	4
1.1 Japan Open Dogdance Competition（日本オープンドッグダンス競技会）の開催	
1.2 参加者 及び 参加犬	
1.3 健康	
1.4 攻撃性	
1.5 手荒な扱い（犬に対する威圧的な行為）	
1.6 ヒート中及び妊娠中のメス犬	
1.7 去勢または避妊された犬	5
1.8 ハンドラーの義務	
1.9 犬の装飾品	
1.10 小道具	
2. JODC の責任と審査について	
2.1 責任	
2.2 審査	
2.3 スチュワード	6
3. 現場の設備と機材	
3.1 競技リングのサイズ	
3.2 複数エントリーの演技順	
3.3 スコアシート	
4. 一般規定、失格、スコアシート	
4.1 ハンドラーの一般規則	
4.2 音楽の長さ	7
4.3 音楽に関する問題	
4.4 小道具の準備と撤去	
4.5 リード	
4.6 指示（サイン）	
4.7 犬を抱きながらのリングの出入り	8
4.8 失格	
5. 競技種目と採点	
5.1 競技種目	
5.2 採点	9
5.3 プレゼンテーション	
5.4 コンテンツ	
5.5 芸術的解釈	10
5.6 減点（動物福祉）	
5.7 同点	

6. ヒールワークトゥミュージック (Heelwork to Music)	
6.1 ヒールワークトゥミュージックのルーティン	
6.2 ヒールワークポジションの定義	
6.3 技術的難易度	11
6.4 10 ポジション	
6.5 6つの方向	12
6.6 ヒールワークパターン	
7. フリースタイル (Freestyle)	13
7.1 フリースタイルのルーティン	
7.2 コンテンツ	
7.3 技術的難易度	
8 クラスと昇級について	
8.1 競技会クラス	
8.2 オープンクラス	
8.3 競技会クラスの合格について	
8.4 合格点の有効期限	
9. 各クラスに求める基準	14
9.1 ヒールワークトゥミュージック	
9.2 フリースタイル	15

序章

これら規程の目的は、飼い主、トレーナー、ハンドラーがドッグダンスのトレーニングを行う事で、トレーニング技術を磨き、向上することを奨励するものです。規程は、すべての犬種が平等に競争でき、犬の福祉が保証されるように作られています。

ドッグダンス競技は、犬とハンドラーが音楽と組み合わせられた芸術的なルーティンを考え実行することです。しかし、犬のトレーニングレベルやハンドラーのスキルに合わないトリックや動作の組み合わせは、失敗を招き、犬は自信を無くし、ハンドラーは競技会に苦手意識を持ち、犬との信頼関係も崩れてしまいます。

競技会は身近な物であり、経験を積み重ねることで、犬もハンドラーも自信をつけていく場所であるべきという考えに基づき、当競技会はクラスごとに推奨する基準を提案し、無理なく確実にステップアップすることを目指しています。

当競技会で重要視することは「**正確性**」です。トレーニングしてきたことを披露し、それを第三者が客観的に評価し数値化する場であると共に、ハンドラーは成果が出せたこと、出せなかったことを確認し、次のステップへの目標を明確にすることです。

その目標のためにトレーニングを積み重ね、クリアし、レベルアップしていくことで、競技としてのドッグダンスが確実なものとなり、競技会をより楽しむことが出来るようになります。

本番の演技で「正確に演技する」ことは、犬の性格や気質、社会性などの影響を受けるため、大変難しく、その部分に関わるトレーニングは、飼い主に対応する犬の意欲、日常生活における基本的な基礎トレーニングなど、犬の全体的な行動を高める必要があります。

もし、その部分のトレーニングが足りておらず、必要なペアがいる場合は、セミナーなどを開催し、改善されるようにサポートしていくことも必要と考えています。

ドッグダンス競技に必要な日常的な基礎トレーニング、社会性、犬の意欲などがトレーニングされた犬とハンドラーの間では、お互いをサポートしあう協力関係と信頼関係が生まれます。そして、その関係性が競技レベルを上げていくことに繋がります。

本規程は、ドッグダンスのスポーツを促進し、競技会をサポートおよび促進するために、Japan Open Dogdance Competition（日本オープンドッグダンス競技会、以下 JODC）実行委員会によって、まとめられました。改訂が必要と判断した場合は、JODC 実行委員会によって改訂されます。

1. Japan Open Dogdance Competition の開催と参加規則

1.1 Japan Open Dogdance Competition（日本オープンドッグダンス競技会）の開催

Japan Open Dogdance Competition（日本オープンドッグダンス競技会：以下 JODC）の開催は、JODC 実行委員会、及び、JODC ジャッジ認定者が提携し開催することができます。
JODC ジャッジ認定者が提携を希望する場合は、提携条件を満たし JODC 実行委員会への申請が必要となります。

1.2 参加者 及び 参加犬

JODC 競技会クラスに参加するハンドラーは 16 歳以上、犬は生後 18 ヶ月以上であること。
オープンクラス、又は、セミナーに参加するハンドラーは 16 歳以上、犬は生後 12 ヶ月以上であること。血統書の有無、断尾、断耳、犬種を問わず、日常的にハンドラーとトレーニングを積んでいる犬であれば参加できます。

1.3 健康

心身ともに健康な犬が参加できます。
伝染病や感染症にかかっている犬、疥癬、鉤虫などの害虫がいる犬は参加できません。ケガや手術後で体の一部を縫っている場合、抜糸前は参加できません。ケガなどの治療中で包帯やテーピングをしている犬も参加できません。

1.4 攻撃性

攻撃的な犬は競技会場に入場できません。
競技開催中いかなる時も（自分の演技前、演技中、または演技後）他の人や犬を咬んだり、咬もうとしたり、攻撃したり、攻撃しようとした場合、審査委員長はその犬を失格にすることができます。その犬の演技がすでに完了していても、すべての点数を失い失格となります。数日開催のイベントでは、失格は他の日にも有効であるため、その犬はその期間中の競争会に参加することはできません。事件は JODC 実行委員会が記録し、以降の競技会参加に関して検討を行います。

1.5 手荒な扱い（犬に対する威圧的な行為）

競技開催中いかなる時も（自分の演技前、演技中、または演技後）犬を罰することを禁止します。体罰はもちろんですが、犬に向かって威圧的に怒鳴ることも同様に禁じます。審査員は、ハンドラーが犬を口頭または肉体的に手荒な扱いをしているかを判断します。
演技中にこれらが発生した場合、審査員は演技を中止することができます。自身の犬に対して手荒なハンドリングをしているハンドラーは失格となります。
会場内で犬に対して手荒な扱いを目撃した場合、目撃者はチーフスチュワードに知らせ、チーフスチュワードは審査員に報告します。審査員は事実を確認し検討後、ハンドラーに判断内容を伝えます。

1.6 ヒート中及び妊娠中のメス犬

ヒート中（ヒート開始日より 4 週間以内のメス犬）及び、妊娠中のメス犬は、通常の状態を保つことが困難な場合があるため、参加できません。競技日の前 75 日以内に出産したメス犬も参加できません。

1.7 去勢または避妊された犬

避妊および去勢された犬は競技会に参加することができます。

1.8 ハンドラーの義務

ハンドラーの義務は、競技施設に入るときに始まり、表彰式後の会場を出るときに終わります。

すべてのハンドラーは、規程、規則、チーフスチュワードの指示に従う必要があります。

ハンドラーには、最高の振る舞い、及び適切な服装が期待されています。ハンドラーが規則を守らなかった場合や不適切な行動をした場合、失格となることがあります。

競技用リングの設営中、又は、設営後は、権限を有する者（チーフスチュワード、又は、ヘッドジャッジ）の許可がない限り、ハンドラーは犬と一緒に競技用リングに入ることはできません。

1.9 犬の装飾品

犬がリング内で首輪を付けずに演技することを推奨します。

首輪はリング内では1つのみ使用でき、装飾することもできます。装飾した首輪は、装飾した部分が犬の前足の付け根（肩）にかからないこと。

必要に応じて、ハーネス、コート、口輪などをリング外で着用できますが、口輪を使用する場合は、犬が自由に飲んだり呼吸したりできるものでなければなりません。

スパイクチェーンまたは電気ショック首輪、その他の同様の拘束装置や手段は禁止します。この制限は、競技会の開始から終了まで有効です。

犬の視界を確保するために、長毛犬（頭部）にゴムのヘアバンドを付けることができます。ヘアバンドの目的は、主に犬の視界を向上させることであり、リボンや花などの装飾はしないこと。

光物やヘアカラーで犬の体を飾ること、リング内で犬に服を着せる事は禁止します。

1.10 小道具

ハンドラーが自分で小道具を配置または撤去しない場合、リング内の小道具を配置または撤去するヘルパーはハンドラーの責任で手配してください。リング内に提示されるすべての小道具は、ルーティンのパフォーマンスに不可欠であり、犬が使用する必要があります。（小道具は3回以上使用する）ルーティンの焦点は常に犬にあるという事を意識し、小道具もハンドラーの衣装も、犬から焦点が外れてしまわないように、バランスの良い物を選んでください。

2. JODC の責任と審査について

2.1 責任

JODC は、このドッグダンス規程の適用によって生じた、いかなる損害についても責任を負いません。

ハンドラー（または犬の所有者）は、彼らの犬が引き起こした損害に対する責任があります。犬同士のトラブルに関しては、当事者同士による話し合いで解決をしてください。

2.2 審査

JODC 競技会クラスでは、2～5名からなる審査員チームを作り、審査を行います。

審査員チームは、JODC ジャッジ条件を満たした者で構成され、審査員の1人が審査員長（ヘッドジ

ャッジ)として任命されます。審査員長は、審査員チームの議長にもなります。
審査員の点数はすべて集計されます。

競技中に、この規程にない出来事が発生した場合、審査委員長は進行方法や出来事をどのように対処するかを判断し決定します。審査委員長は決定を下す前に、審査員チームとその問題について協議することができます。審査員の決定は最終的なものであり、どの競技者も審査の決定に異議は唱えられません。

JODC の審査員は、JODC 実行委員会が開催するドッグダンス審査に関する十分なトレーニングを受ける必要があります。ジャッジセミナーを受講し、シャドウジャッジを経験後、JODC 審査員となります。JODC ジャッジ認定者が提携して行う競技会でも、JODC 審査員で審査員チームを構成しなければなりません。審査員チームを構成する際には、JODC 実行委員会に JODC 審査員メンバーを確認し、構成した審査員チームを申請する必要があります。

2.3 スチュワード

競技会にはチーフスチュワードが任命されます。チーフスチュワードは、大会を運営するためのすべての要件を担当します。

3. 現場の設備と機材

3.1 競技リングのサイズ

競技会は常に屋内で開催されるのが望ましいが、リングサイズ、音響（近隣への迷惑）、サブリング、競技者待機場所など、必要な条件がクリアできれば、屋外で開催することもできます。

リングのサイズは 18m x 18m ~ 20m x 20m を推奨します。そのサイズで目印をつける必要があり、境界線の目印は、柵、板、ロープ、テープなどを使用することができます。

リングのサイズと配置は、競技会全体を通して一定でなければなりません。

3.2 複数エントリーの演技順

同じ日に 2 つ以上のエントリーをするペア（例：2 頭の犬、または 1 頭の犬で 2 種目、またはその他の可能な組み合わせ）の場合、演技後は 20 分以上の休憩時間を確保できるように、演技順を考慮する必要があります。

3.3 スコアシート

スコアシートは選手に手渡されます。

4. 一般規定、失格、スコアシート

4.1 ハンドラーの一般規則

参加者は、審査員、ヘルパー、その他の参加者に対して常に礼儀正しく対応します。

競技前、競技中、競技後の不適切な言葉遣いや不適切な行動は、失格及び／又は、会場への出入り禁止の対象となります。ハンドラーがリングに入る場合、審査員長の許可を得る必要があります。

4.2 音楽の長さ

音楽の長さは最長 4 分まで。4 分を超えると減点され、超過時間が 15 秒を超えると、音楽が止められ競技者は失格となります。各クラスに求める基準に満たない音楽の長さの場合も減点となります。

4.3 音楽に関する問題

ルーティン中に音楽が止まった場合、競技者はルーティンを完了する機会が与えられます。

音源の不良が原因（ハンドラーの責任）であった場合、下記から選択できます。

- （１）ハンドラーの用意した予備音源を使用し、審査員は音楽が停止した部分から採点をします。
- （２）ハンドラーはルーティンを最後まで演じずに、音楽が停止する前までの演技で審査されます。

音響機器などの技術的な問題が原因（運営側の責任）だった場合、問題解決に時間がかかると判断した時は、審査員はハンドラーをリングから退出させます。

ハンドラーは、どのようにルーティンを完了するかを下記から選択できます。

- （１）問題解決後、審査員は音楽が停止した部分から採点をします。
- （２）ハンドラーはルーティンを最後まで演じずに、音楽が停止する前までの演技で審査されます。
- （３）演技時間を変更して、ルーティンの最初から演じ採点をします。（再演技前の採点は無効）

音楽が途中から再生された、音がおかしいなど、途中で音楽を止めたい場合は、ハンドラーは明確に中止の合図を示してください。音楽が開始されない問題が発生した場合（スタート位置につかずに練習するなど）も、審査員はペアを退出させることができます。ハンドラーは、リングに入ったらすみやかにスタート位置につき、音楽の開始合図を明確に示してください。

ルーティンは、音楽が始まると開始し、音楽が終わると終了します。犬とハンドラーの両方が、ルーティンの最初から最後までリング内にいる必要があります。

4.4 小道具の準備と撤去

小道具／飾り付けの準備と撤去は、合計 3 分（2 x 1.5 分）以内に行い、時間を超えると失格となります。時間はリングスチュワードによって管理され、遅延が生じた場合は審査員に通知されます。

4.5 リード

リング内でリードを使用することはできません。

可能であれば、主催者は次に演技する犬が単独で準備できる別の待機場所（ホワイエ）を用意する必要があります。

リードは、リングに入る前にリングスチュワードに渡すか、決められた場所に置きます。

4.6 指示（サイン）

指示は、声、ハンドサイン、ボディサインで与えることができます。犬は常にハンドラーの指示に反応する必要があります。継ぎ目のないルーティンを維持している限り、動作維持のための指示は減点対象ではありませんが、犬が指示に反応せず繰り返す指示は、減点対象となります。

4.7 犬を抱きながらのリングの出入り

リングに出入りする間、ハンドラーは犬を抱いて運ぶことができますが、小道具で犬を運ぶことは禁止です。ルーティンを開始する前に、犬は地面に置かれ、自発的にスタート位置に着く必要があります。ルーティンを終了するとき、終了位置がハンドラーの腕、背中、脚などにあるときは、一度地面に犬を降ろしてから、抱いてリングから出てください。

4.8 失格

以下の項目に該当する場合、失格の対象となります。

- ・ 申請と異なるハンドラーまたは犬が参加している。
- ・ 審査員をだまそうとする行為や不正、及び参加規則に従わない。
- ・ リング内に動機付けの道具（おもちゃ、クリッカーなど）を持ち込む。
- ・ リング内に食べ物（フード、トリーツ、人用の食べ物を使った小道具）を持ち込む。
- ・ ハンドラーが意図的に小道具を報酬として使用した場合。
- ・ 犬が制御不能でリングを離れる。（犬が演技中に誤ってリング外に出た場合は減点）
- ・ 犬がリング内で排尿又は排便した場合。
- ・ ハンドラーが明らかにルーティンをトレーニングラウンドに変更した場合。（※手で大きくバツを作って、トレーニングラウンドにしたことを示してください。音楽は最後まで流します）
- ・ 手荒な扱いは、いかなる形態（口頭又は肉体的）でも許されません。
- ・ 犬が競技会場や会場となる施設内で別の犬や人を攻撃した場合。
- ・ リング内で競技中にリードをつけている。
- ・ ダブルリング – 2つの首輪をつけている。
- ・ ダブルハンドリング – リング外側からの補助。
- ・ 犬をコントロールするために犬に触れる。ハンドラーが自分から犬に触ることは許されていません。ハンドラーとの接触は犬によって行われるべきです。
- ・ 犬に服を着せる。（オープンクラスは、服を着せても構いません）

これらの規則の違反は失格につながる可能性があります。

ルーティンが終了している場合は、問題個所について審査員長は他のジャッジと話し合い、失格となった際には、失格であることを示します。（ハンドラーに直接口頭で伝えなくても可）

ルーティンが終了していない場合は、音楽を停止し、審査員の話し合い後、ハンドラーを審査員テーブルに呼び、審査員長から失格であることをハンドラーに口頭で伝えます。

5. 競技種目と採点

5.1 競技種目

競技種目は、Heelwork to Music（ヒールワークトゥミュージック）とFreestyle（フリースタイル）の2種目となります。競技会クラスでは、犬は各種目（ヒールワークトゥミュージック、又は、フリースタイル）に一度のみ参加でき、同じ競技会で両方の種目に参加することができます。

5.2 採点

採点は、3つのカテゴリー（プレゼンテーション・コンテンツ・芸術的解釈／各最大10点）からなり、30点満点となります。減点対象となる「吠え」はプレゼンテーションから、「動物福祉」は、合計点からの減点となります。

採点は、小数点以下1位まで（0.1点）とし、全ジャッジの合計点からジャッジ数で割った平均点（小数点以下2位まで）によって最終的な点数とします。全ジャッジの採点を公表します。

5.3 プレゼンテーション

プレゼンテーション (Presentation) / 最大 10 点
正確性 / 動作の正しい実行
指示 (サイン) / 反応性
協力関係 / 信頼性
活気あるエネルギーの調和
※ 吠えによる減点（最大-2点まで） / 過度な吠え・ストレスを伴う吠え

※このカテゴリーでの減点：ミス、吠え、犬を物理的に操作、保持するなど。

5.4 コンテンツ

コンテンツ (Content) / 最大 10 点
動作の多様性 / 個々の動作の難易度
ルーティンの構成 / 犬に焦点をあてる
トランジション（動作間の移行） / バラバラな動作の連続になっていないか
バランスの取れた動きでルーティンを興味深い物にしているか
バランスの取れたリング使用 / 使用域（犬のサイズによる）

※このカテゴリーでの減点：正しいフリースタイル量とヒールワーク量でない。

音楽が長すぎる（-0.2/秒）、小道具を有効的に使用していない（できれば3回以上）未使用の小道具があるなど。

5.5 芸術的解釈

芸術的解釈 (Artistic Interpretation) / 最大 10 点
コンセプトの可視化
音楽が犬のペースと動きのパターンに合っているか
音楽の表現
ハンドラーの動きは適切であり、犬のパフォーマンスを向上させているか
ルーティンは音楽の感情を反映しているか

※このカテゴリーでの減点： 衣装や小道具がテーマに関連付けられていない。
ルーティンが家族向けではないなど。

5.6 減点（動物福祉）

動物福祉 (Animal welfare) / 最大-2 点
犬種、年齢、身体能力、精神能力、健康を考慮していない
安全を考慮していないトリックや動作
日常的に手荒な扱いを受けていると判断できる反応（手荒な扱いは失格）
小道具や衣装によって、犬がストレスを感じている

5.7 同点

最終的な点数（小数点以下 2 位までの点数）で同点者がいた場合、ヒールワークトゥミュージック、フリースタイル共に、「動物福祉の減点が少ない」「プレゼンテーションの得点が高い」「コンテンツの得点が高い」の順で順位を決定します。それでも同点の場合は、審査委員長が決定します。

6. ヒールワークトゥミュージック (Heelwork to Music)

6.1 ヒールワークトゥミュージックのルーティン

75%以上のヒールワークと 25%以内のフリースタイル動作で構成されていること。ルーティン全体を通して犬がハンドラーから 2m以上離れてはいけません。（2 m 以上離れた場合は減点）

6.2 ヒールワークポジションの定義

「理想的なヒールワークポジション」は、犬とハンドラーの間の距離が一定であり 15cm 以下です。犬は 4 本の足すべてで歩く必要があり、犬もハンドラーもお互いの動きを制限してはいけません。

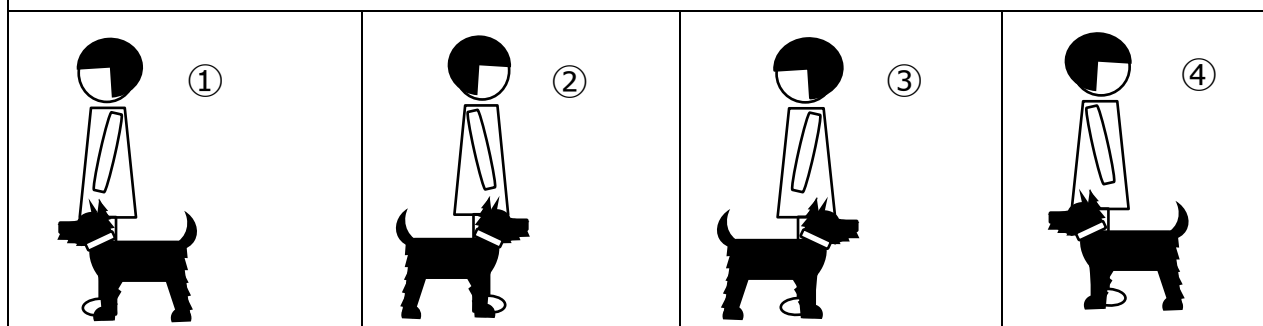
犬は常にハンドラーのペースと方向に適応する必要があり、犬が遅れたり先行したりすることは望ましくありません。犬は横への動きでない限り、すべてのポジションで平行を保ち、1つの軌道上のみで移動することが望まれます。どのポジションも同じように安定している必要があり、犬は自然体で動くべきです。犬とハンドラーの間の距離が 50 cm を超えた場合フリースタイルと見なされ、その距離はハンドラーの最も近い部分から犬の最も近い部分で測定されます。

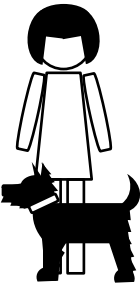
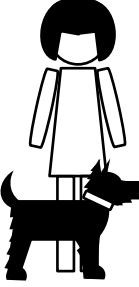
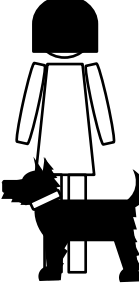
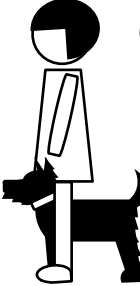
6.3 技術的難易度

ルーティン難易度はポジションの数だけではありません。動く方向の多様性とスピード変化も関係しています。ポジションの変更は、犬が自立してポジションを見つける能力を必要とします。

6.4 10 ポジション

- ①ハンドラーの左脚（左側）の隣に、犬の右肩が平行に位置している。
- ②ハンドラーの右脚（右側）の隣に、犬の左肩が平行に位置している。
- ③ハンドラーの左脚（左側）の隣に、犬の左肩が平行に位置している。（左側で逆向き）
- ④ハンドラーの右脚（右側）の隣に、犬の右肩が平行に位置している。（右側で逆向き）
- ⑤犬がハンドラーの前に、犬の右側がハンドラーの前に来るように横向きに立っています。犬の右肩はハンドラーの右脚に位置しており、犬の右肩はハンドラーの右脚の内側、外側のいずれかにあります。
- ⑥犬がハンドラーの前に、犬の左側がハンドラーの前に来るように横向きに立っています。犬の左肩はハンドラーの左脚に位置しており、犬の左肩はハンドラーの左脚の内側、外側のいずれかにあります。
- ⑦犬はハンドラーの後ろに立っており、犬の右肩はハンドラーの左脚の位置にあります。
- ⑧犬はハンドラーの後ろに立っており、犬の左肩はハンドラーの右脚の位置にあります。
- ⑨犬はハンドラーの脚の間に位置し、ハンドラーと同じ方向を向いています。犬の肩はハンドラーの脚の位置にあります。
- ⑩犬はハンドラーの脚の間に位置し、ハンドラーと反対方向を向いています。犬の肩はハンドラーの脚の位置にあります。

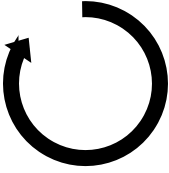
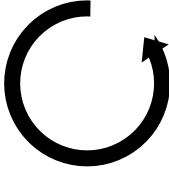


 ⑤	 ⑥	 ⑦	 ⑧
 ⑨	 ⑩	ハンドラーは、10 ポジションのリストからいくつかのポジションを選択してルーティンを構成します。ポジションにいても、1 ポジションと見なされますが、ハンドラーと同方向に動くヒールワークを見せることを重要視してください。リスト以外のポジションは、フリースタイルとなります。	

6.5 6つの方向

6つの方向とは、各ポジションで犬が動く方向を意味しています。

- (1) 前進：前に進む
 - (2) 後進：後ろに進む
 - (3) 左方向：左に進む
 - (4) 右方向：右に進む
 - (5) 270 度以上の右回転：その場で、270 度以上右に回転（時計回り）する
 - (6) 270 度以上の左回転：その場で、270 度以上左に回転（反時計回り）する
- (注) U ターンは方向転換、大きな回転は曲線を描いたと判断し、方向には含みません。

前進	後進	左方向	右方向	270 度以上の 右回転	270 度以上の 左回転
					

6.6 ヒールワークパターン

ヒールワークのパターンは、10 ポジション×6 方向=60 パターンとなります。

※⑨⑩の股下ポジションで、後ろ回転（270 度以上の右回転・270 度以上の左回転）があった場合は、追加パターンとしてコンテンツに含み、1 方向としてカウントします。

7. フリースタイル (Freestyle)

7.1 フリースタイルのルーティン

「フリースタイル」ルーティンは、75%以上のフリースタイル動作と 25%以内のヒールワークで構成されていること。動きが犬の健康を危険にさらさない限り、すべての動きが許可されます。

7.2 コンテンツ

「理想的なフリースタイル」は、さまざまな種類の動作で構成されており、動作は音楽の変化に合わせて、流れよくルーティンに組み込まれている必要があります。

7.3 技術的難易度

同じ動作でも、犬やハンドラーの位置（高い、低い）や、お互いの位置関係の違いによって、難易度が変わります。難易度の高い動作として、「遠隔」「アイコンタクトを取らない」「複合動作」があります。

8 クラスと昇級について

8.1 競技会クラス

競技会クラスは、Class1（クラス 1＝ノービス）、Class2（クラス 2＝インターミディエイト）、Class3（クラス 3＝アドバンス）の 3 クラスで構成されています。エントリーは、1 ペア（ハンドラー 1 名 & 犬 1 頭）が基本となります。競技会クラスは、リンク内へのモチベーターの持ち込みは禁止です。合格点を 2 回取得することで、次のクラスへ昇級することができます。

8.2 オープンクラス

Open Class（オープンクラス）は、1 曲を 1 回のみ通して流します。競技会クラスに出場するペアの競技会前の練習、ルーティン練習をしたいペア、3Dance（1 ハンドラー & 犬 2 頭）、4Dance（2 ペア＝2 ハンドラー & 犬 2 頭）でのエントリーも可能です。リンク内へのモチベーターの持ち込みは可能です。エントリー条件は、ルーティンをお持ちの方となります。（パーツ練習は不可）

8.3 競技会クラスの合格について

採点は、3 つのカテゴリー（プレゼンテーション・コンテンツ・芸術的解釈 / 各 10 点満点）で 30 点満点です。各カテゴリーで 7.0 点以上、合計 21.0 点以上で合格となります。ただし、各カテゴリーで 7.0 点以上であっても、動物福祉で減点があり 21.0 点に満たない場合は、不合格となります。

8.4 合格点の有効期限

1 回目の合格点を取得してから、2 回目の合格点を 2 年以内に取得できなかった場合は 1 回目の合格が失効されます。1 回目の合格を失効した場合は、同クラスで 1 回目合格の再チャレンジからとなります。

9. 各クラスに求める基準

9.1 ヒールワークトウミュージック

ヒールワークトウミュージック種目のポジションは、犬の肩がハンドラーにつく側が片方（右肩のみ、左肩のみ）に偏らないように、バランスよくポジションを選んで構成してください。
フリースタイル部分はヒールワークコンテンツに含まれませんので加点対象とはなりません、25%以内の量でルーティンに組み込むことができます。ただし、フリースタイル部分でミスがあった場合は、プレゼンテーションで減点となります。

<Class1>

曲の時間：2分～4分以内

ポジション：最低3ポジション（推奨するポジション：① ② ⑤ ⑥ ⑨）

ヒールワークパターン：最低5パターン

ハンドターゲット：ポジションの手助けとして、ハンドターゲットを出し続けてもよい。

トランジション（つなぎ部分）：複雑な動きは求めない。

トランジション後に、犬が次のポジションにつくためにハンドラーが止まって待ち、犬がポジションにきちんとついてからの移動でもよい。

振り付け：犬が迷わないように手助けを含む振り付けでよい。ハンドラーは、犬をなるべく見ずに演技が出来るとさらに良い。

ルーティン構成：直線の動きだけでも良いが曲線があるとさらによい。スピード変化は求めない。

衣装や小道具：テーマにあったもの。

<Class2>

曲の時間：2分40秒～4分以内

ポジション：最低5ポジション

（推奨するポジション：① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑨ ⑩の内、③ ④ ⑩のどれかを含む）

ヒールワークパターン：最低10パターン

ハンドターゲット：トランジション後の次のポジションへの手助けと、動き出しの手助けとして出してもよいが、できればその後は出し続けない。スムーズに次のポジションへ犬が自主的に移動できればさらに良い。

トランジション（つなぎ部分）：複雑な動きは求めないが、曲の切り替えなどに合った動きがはいっているとさらに良い。

振り付け：犬の手助けを含む振り付けと、テーマに合った振り付けがあるとさらに良い。ハンドラーは、どこかのポジションで犬を見なくてもヒールワークが出来る事を示す必要がある。

ルーティン構成：直線の動きと、曲線が含まれていること。スピード変化（速い、または、遅い）があるとさらによい。

衣装や小道具：テーマにあったもの。

<Class3>

曲の時間：3分10秒～4分以内 / 世界大会を目指すペア：3分30秒～4分以内

ポジション：最低7ポジション（10ポジションの内、⑦ ⑧ ⑩のどれかを含む）

ヒールワークパターン：最低15パターン（どこかのポジションで4方向以上動く）

ハンドターゲット：トランジション後の次のポジションへの手助けとして出してもよいが、その後は出し続けない。ハンドターゲットがなければさらに良い。

トランジション（つなぎ部分）：複雑な動きは求めないが、曲の切り替えなどに合った動きがはいっていると良い。

振り付け：テーマに合った振り付けがあるとさらに良い。ハンドラーは、犬を見なくてもヒールワークが出来る事をいくつかのポジションで示す必要がある。

ルーティン構成：直線の動きと、曲線が含まれていること。スピード変化（速い、または、遅い）があること。

衣装や小道具：テーマにあったもの。

9.2 フリースタイル

フリースタイル種目のコンテンツは、一つ一つのコンテンツ紹介とならないように、つなぎがスムーズで流れのあるルーティンを構成してください。

ヒールワーク部分（ヒールワークトゥミュージックのポジションで、犬とハンドラーが同じ方向に動く動作）は、フリースタイルコンテンツに含まれませんので加点対象とはなりませんが、25%以内の量でルーティンに組み込むことができます。ただし、ヒールワーク部分でミス（不正確なヒールワーク）があった場合は、プレゼンテーションで減点となります。

<Class1>

曲の時間：2分～4分以内

コンテンツ：6以上のコンテンツ（動き、トリックなど）が含まれていること。犬が確実に出来る動作で構成し、同じ動作を繰り返す場合は、ハンドラーとの位置関係などを変えて違うコンテンツとすること。難易度の高い動作は特に求めない。

指示のサイン：動作の手助けとして、ハンドサインやボディサインを出してもよい。

振り付け：犬が迷わないように手助けを含む振り付けでよい。サインと分からない振り付けとなっていた方がさらに良い。

ルーティン構成：特に決まりはありませんが、コンセプトが可視化できること。

衣装や小道具：テーマにあったもの。

<Class2>

曲の時間：2分40秒～4分以内

コンテンツ：10以上のコンテンツ（動き、トリックなど）が含まれていること。犬が確実に出来る動作で構成し、同じ動作を繰り返す場合は、ハンドラーとの位置関係などを変えて違うコンテンツとすること。難易度の高い動作が含まれているとさらに良い。

指示のサイン：サインと分からない振り付けや言葉の指示で動けるとさらに良い。

振り付け：テーマに合った振り付けがあるとよい。振り付けが手助けとなっていない言葉の指示で犬が動けるとさらに良い。

ルーティン構成：特に決まりはありませんが、コンセプトが可視化できること。

衣装や小道具：テーマにあったもの。

<Class3>

曲の時間：3分10秒～4分以内 / 世界大会を目指すペア：3分30秒～4分以内

コンテンツ：12以上のコンテンツ（動き、トリックなど）が含まれていること。犬が確実に出来る動作で構成し、難易度の高い動作が含まれていること。

指示のサイン：サインと分からない振り付けや言葉の指示で動けるとさらに良い。

振り付け：テーマに合った振り付けであること。振り付けが手助けとなっていない言葉の指示で犬が動けることをどこかで示すこと。

ルーティン構成：特に決まりはありませんが、コンセプトが可視化できること。

衣装や小道具：テーマにあったもの。